

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	福岡県立大学				
取 組 名 称	不登校・ひきこもりへの援助力養成教育				
取組学部等	看護学部, 人間社会学部				
申 請 区 分	上記以外の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A31033	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申 請 の 分 類	体験活動	職業教育		地域活性化	
キ ー ワ ー ド	不登校・ひきこもり, 援助力, 大学内フリースクール, 包括的ピア・スーパービジョン, 不登校・ひきこもり援助科目群				

<選定理由>

本取組は、現在の日本の社会的問題の一つである不登校・引きこもりを取り上げ、19年度からサポートセンターをつくり取り組んできた実績の上に立った、公立大学としてユニークかつ意欲的な提案であり、今後の発展も期待できる。これにより、学校ばかりでなく、対象者のいる家庭や、職場・社会での活動に十分な自信と他からの信頼をもって取り組んでいける人材の育成が期待される。

取組の実施に当たっては、心理学、臨床心理、倫理、哲学など基礎的素養、実践力、学力や職能の指導力、対人コミュニケーションなどについて高度の能力を身につけさせることが特に必要と思われる。こうした科目の目的・履修目標・達成成果についての検討を進め、科目の充実や刷新、教員の能力開発につき、計画的な実施が望まれる。

取組の概要

不登校・ひきこもりは、わが国の大きな社会問題となっている。平成 19 年 9 月、福岡県立大学附属研究所に、同問題の解消を目指し、不登校・ひきこもりサポートセンターが開設された。同サポートセンターは、附属研究所にある 3 センターのうち、唯一、人間社会学部と看護学部の共同で運営されているセンターとなっている。

本取組は、その不登校・サポートセンターに、3つの機能（1.子ども支援機能，2.家族支援機能，3.社会化促進支援機能）を有する大学内フリースクールを設置し、これを最大限に活用した教育プログラムを実行することにより、不登校・ひきこもりへの「援助力」を有した学生の養成を目指す（図-1 参照）。

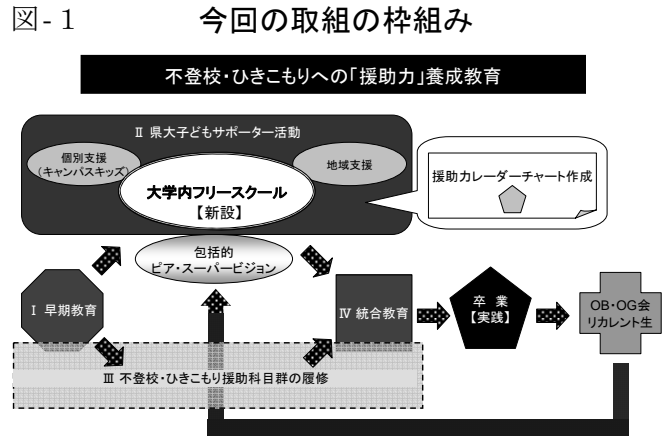
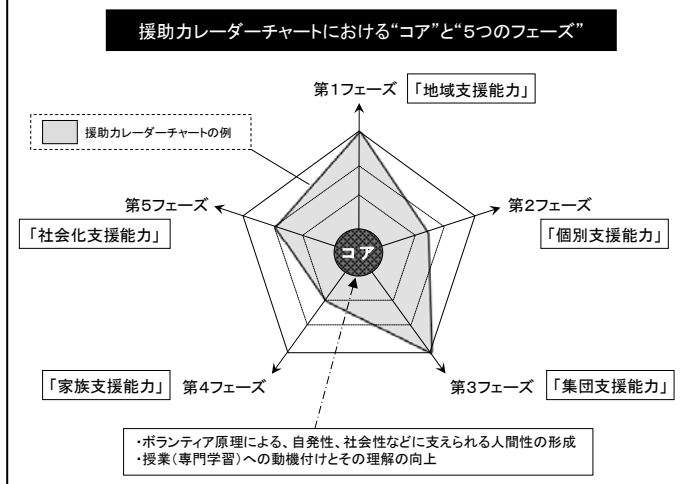


図-2 「援助力」の構成要素と評価図



不登校・ひきこもりへの「援助力」は、1つのコア（ボランティア原理による自発性・社会性などに支えられる人間性の形成）と5つの能力（1.地域支援能力，2.個別支援能力，3.集団支援能力，4.家族支援能力，5.社会化支援能力）から構成されていると定義する。

取組と学生への教育的評価には、各能力の達成度を「援助力リーダーチャート」を用いて表現する（図-2 参照）。

大学内フリースクール等における「県大子どもサポーター」活動は、包

括的ピア・スーパービジョンという不登校・ひきこもりに関係するあらゆる立場の人々及び学生たち自身の経験知共有および互恵的学習により、学生の「援助力」をより広げることが可能である。

大学カリキュラムにおいては、不登校・ひきこもり援助科目群（選択：新設 3 科目，既設選択 46 科目）を新たに設定する。本科目群の履修と県大子どもサポーター活動の相乗作用により、実践知と理論知の融合をはかる。卒業後専門職として不登校・ひきこもり問題に的確に対処できる能力を育成し、また、卒業後に現場で得られた経験知をリカレント教育の場を通じて、現役学生に還元する教育サイクルを設定する。

取組を通じて、全国他大学においても運用可能な、根拠に基づく汎用性の高い、不登校・ひきこもりへの「援助力」養成教育モデルの開発を行う。